

－発表要旨・論文－

一般演題

1. 上部内視鏡検査における咽頭麻酔法の工夫

～スプレー法を導入し、受検者の不快解消を目指して～

社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院 内視鏡センター

○大城 敦、宮城 愛子、上江洲さやか、前田るみ子

伊佐 杏澄、照屋あづさ、渡久山すえの、喜屋武香織

【はじめに】

当院、内視鏡センターでは平成24年度より受検者の苦痛軽減を図る目的で、オリゴ糖入りキシロカインビスカス氷片法を導入した。しかし、氷片法は氷が溶けるまで時間がかかる事や氷を含む間の味や食感が苦手な受検者の意見が多く聞かれた。

近年、８％リドカインスプレーを咽頭に噴霧するスプレー法も簡単で効果が高いと報告を受け、当院も平成30年９月よりスプレー法での咽頭麻酔法を導入し、受検者の不快解消を目指した。スプレー法における咽頭麻酔効果の検証を行ったので報告する。

【目的】

咽頭麻酔が簡易かつ効果的に行え、受検者の不快解消を図る。

【対象】

平成24年以降、当院で氷片法を経験した受検者215名

【方法】

1. 統一した手技のスプレー法
2. アンケート調査
 - ①咽頭麻酔スプレー法における苦痛度
 - ②スプレー法の麻酔効果と次回希望する咽頭麻酔法
 - ③PNS（パートナーシップ ナーシング システム 以後PNSと略す）外回り経験内視鏡スタッフ12名による麻酔業務の評価
3. 所見における氷片法とスプレー法の同一受検者反射度の比較
4. 当院人間ドック受検者における検査終了時間の比較

【結果 考察】

1. スプレー法は7割の受検者きつくもなく麻酔効果が効いていると答え、8割の受検者がスプレー法を希望した。
2. 同一受検者の反射度を所見で比較した結果、有意差はなかった。
3. スプレー法導入はスタッフ全員が業務短縮につながったと答えた。

咽頭麻酔スプレー法は苦痛度が低く、受容度も高いため咽頭麻酔に有効な麻酔法だと考えられる。スプレー法導入はコスト削減と内視鏡業務時間削減につながった。

【結語】

スプレー法は、リドカインショックのリスクが高いため、今後はスタッフの医療安全への意識向上を高めていきたい。

【連絡先：〒901-2492 沖縄県中頭郡中城村字伊集208番地 ハートライフ病院】